



Title	沖縄関係23 (米国民政・軍用資産引継調査・交渉) (大臣基地研報告(八・二一) 外務省外交史料館レファレンス番号:H223645)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(4)No.8 公開日:平成23年2月18日 外務省外交史料館管理番号:2011-0026 CD・DVD番号:H22-021
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43741
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

大臣基地研究台(下三)

局長
局長

基地研究会報告書

4月21日
局長

(秘)

8月21日朝基地研究会における
新の報告書の通り。(於東京の21日)

大臣。新報告書の会議を通じて。
共同声明書の作成作業が早く進むこと

新報告書の文の総観視的考察と関係
結果。迅速の時期。核、水素等の

問題は何れも相互の利益がある。
一つの package と呼べるべきである

この共同声明。この共同声明が得られ
れば、それは、標準的なものである。

自主防衛。対政問題との他、他の
問題があるが、当面は、核問題を扱いたい。

片手一保

問題をしぼって、~~片手~~をやって居る。
朝鮮半島の10ヶの要領の調査の通り。

おかしなところ。台湾の問題は中共の
対台関係との関係において考慮

すべきである。この共同声明は、核等
問題中の問題がある。米側の立場は

新報告書と関係するところがある。核等の
早期終結という標準である。共同

声明の両者の合意と、その表明
結果。それは、標準的なものである

大統領の発言の自由と、その一方の
宣言と、標準的なものである。

でも、それは、

久松 - 9月1日付は米の早期終結
が目標である。おがの協力も米結
補給の他の基地提供 戦後復興
への協力等作戦面以外に米の
分野がある。米がB52の使用を止め
るのは戦術的では困難である。
空前協定の他の合同協定採擷の
話も報じられているが、軍技協定と
いってよく、hot lineの3行
政府重要首脳間の政治判断をゆが
める形は望まない方向である
三好 - 米の絶対的優越の出現を
是れを予防するに目的とする
日本軍関係の具体的な利点はない。
早稲を準備する。好箇の場合と在り得
る

B52の将来の処置は日米の防衛
政策の基となる観点から要する問題
である。妥協を許すため米側から
(久松同様) 9月1日付の
西島は
早期解決の希望を表明するとの
考え方は、極めて論理的である。
米は9月1日付の政治的敗退となる
如き事態を避けようとして「敗れるか勝
つか」を思いつくべきである。
9月1日付 post Vietnam のため
ハノイを含む接戦の如き措置は踏み
切らず、米の政治的敗退となる様
々な方法
場を準備するべきである

提請由閣下負責。